

令和5年度 和歌山県立高等看護学院自己評価

令和6年5月30日

当学は、平成19年度より自己点検・自己評価を実施し、結果をHPで公表してきた。令和3年度より更なる教育の質保証と向上を目指し、評価システム全般の見直しを開始した。R6年度からは、自己点検・自己評価委員会規定を学校評価規定と改め、新たに学校関係者評価委員会を設置し、活きる学校評価を目指すこととなった。

令和5年度自己評価結果を『総括的評価』『重点課題評価』により報告する。

【総括的評価】

- 評価基準（専門学校等評価基準 Ver.4.0 を基に作成した9領域65項目）点検結果
9領域：①教育理念・目標 ②学校運営 ③教育活動 ④学習成果 ⑤学生支援
⑥教育環境 ⑦学生受け入れ募集 ⑧法令等遵守 ⑨社会・地域貢献
- 教育実績（学生：入学・卒業・退学・国家試験・就職状況等 教員：ラダー・研修・学会等）

【重点課題評価】

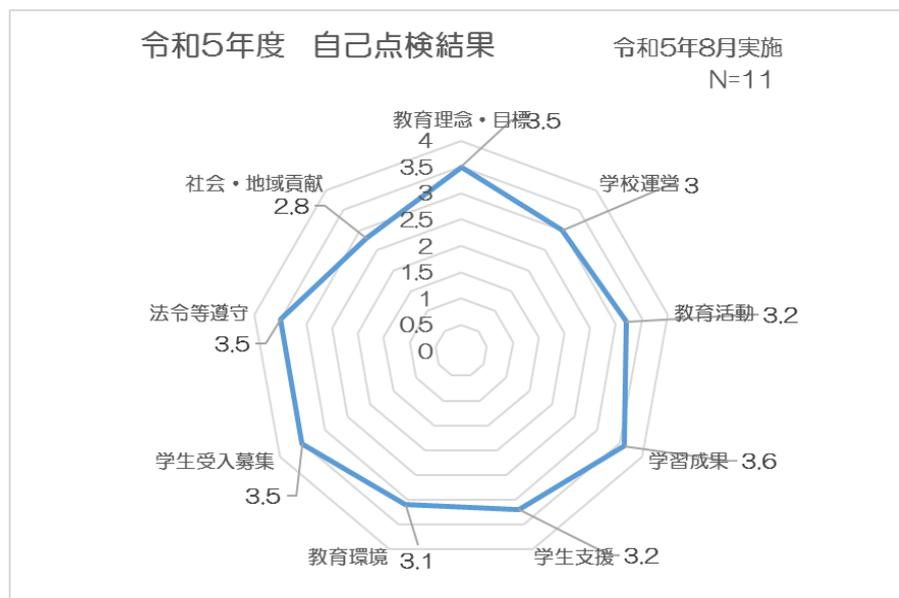
- 年度における重点課題の実施結果

ビジョン	変化にしなやかに適応し、“看護が好き”と、生涯にわたり生き活きと実践し続ける質の高い看護職を輩出する学院
組織目標	I. 教育内容の充実：アップデートしながら最善を追求する教育 II. 教職員の人材育成：個の尊重と成長・組織としての成長を目指す人財育成 III. 教育環境の整備：いきいきと学ぶ・働く環境の保証
R5年度 重点課題	I. 教育内容の充実 1. 新カリキュラム2年目の実施・評価 2. 学生個々の強みに応じた学習支援（R4年度：学生個々に応じた支援から変更） 3. 活きる自己点検・自己評価システムの再構築（R3～継続） II. 教職員の人材育成 1. 専任教員ラダーの実施・評価（R3～継続） III. 教育環境の整備 1. ICT社会に適応できるICT教育環境の整備 2. 組織としての協働体制確立（R3～継続） 3. 安全・安心な環境を保証するハラスメント対策



和歌山県花（梅）をモチーフにデザインした本校の教育 イラスト：フリー素材使用

【令和5年度 総括的評価】



1. 評価基準点検の結果をもとに、以下取り組みを実施した。
教育理念・目標：教育をデザインに表し（前ページ梅の花）、身近なものとして教育周知を実施。
デザインのシール化・配布の実施。
学校運営：学生の意見を聞く機会の確保。（管理者と話す機会設置・相談窓口拡大）
社会・地域貢献：地域の祭りへの参加、近隣地域の祭りと学院祭の同日開催。R6年度も継続して同日開催計画。
コロナ禍で中止していた地域住民の授業協力（模擬患者等）依頼再開へ。
R6年度1年生コミュニケーション演習から再開。

2. 教育実績

- ・定員充足率 100%を維持、入学者は高い確率で卒業（97.6%）、国家試験合格 100%であり、当学に入学した学生は高い確率で看護師になるという夢を叶えることができている。
しかし、学生確保は困難な状況となってきている。当学での教育を希望し、当学の考えと一致する学生をミスマッチなく確保し、引き続き質の高い看護師養成を目指す。
- ・卒業生は県内就職率（87.8%）が高く、県民に当学が果たす役割を果たしている。
- ・教員は主体的に継続学習（のべ105名参加）を行い、最新の知識を得ている。
- ・教員のキャリア支援（教務主任研修・中堅期リーダーシップ研修等）を継続できている。
- ・助産学科は、591名の助産師を社会に輩出し、令和6年3月末をもって57年の教育を閉じた。最後の卒業生まで十分な教育を提供し完結できた。

【令和5年度 重点課題評価】

	R5年度重点課題	評価概要
I 教育 内容 の 充 実	1. 新カリキュラム 2 年目の実施・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・R4 年度開始の新カリキュラムで強化・変更した科目や教育方法を中心に定期的に会議にて検討した。 【新設科目】 前年度評価を基に一部科目で新たな講師を迎え充実をはかった。 【フィールドワーク】 ・早期から臨地での実体験から学ぶことを目的に、4 科目（1・2 年）でフィールドワークを計画した。R5 年度に全 4 科目実施により、『目標の重複』、『臨地実習の学びとの相違と発展』など課題を確認した。 【シミュレーション教育】 ・1 年 3 科目、2 年 7 科目で導入した。授業内容は期待に則したものとなっていた。シミュレーション教育に必要な機材は、計画的に購入できており過不足はない。 *R6 年度は、新カリキュラムで教育を受けた初の学生が卒業年となる。3 年間のカリキュラムを学修成果とともに評価していく。 【実習】 ・R6 年度実習に向け、医療機関以外の実習場（内容：乳児院・里親・地域母子支援等）を確保し、実習整備を行った。 ・実習時間変更・短縮（R4 年度より）実施。 目的：学生の睡眠・学習時間確保（健康のうえでの学習） 学生・教員間での対話時間確保 学生アンケートから睡眠時間増加・気持ちの余裕・学習時間増加を確認した。教員アンケートからは、教員間の情報交換時間が取れるようになったことが確認できた。 時間変更は、よりよい学習につながっている。
	2. 学生個々の強みに応じた学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・『学生個々に応じた支援』を改め、明確なアプローチ方法を行動化するため『強み』に焦点を当てた取り組みを開始した。 ①学生への関わりに向けたアプローチ（強み確認・フィードバック） ②教員の理解促進（講義） ③学生の理解促進（講義）の 3 方向から実施。 ・学生の反応（事後の感想・意見）から講義の意味があると思われた。 ・今後、教員の理解・意志・行動変化へのアプローチが必須である。
	3. 活きる自己点検・自己評価システムの再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・R3 年度から検討継続し、R5 年度学校評価規定作成、学校関係者評価委員選任・承認、R6 年度学校関係者評価委員会開催に至った。今後は継続を第一に、活きる学校評価を目指す。
II 人 材 育 成	1. 専任教員ラダーの実施・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的に看護基礎教育に係る実践能力および資質向上を図るとともに、個々のキャリアを継続的に支援する人財育成システムとして、R2 年度より専任教員ラダーを開始した。実施評価を継続し、目標管理・評価、研修、キャリア支援等の運用実施に至った。今後は、目指す人財育成・キャリア支援に向けて、内容・質検討に入る。
	1. ICT 社会に適応できる ICT 教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・R4 年度より ICT 委員会を立ち上げた取り組み継続。 ・R5 年度デジタル教科書導入に取り組み R6 年度開始となった。予算・セキュリティ・設備等多種の課題を認める。R6 年度再度ロードマップ作成から取り組む。また、ICT 社会から DX 社会への適応と変更する。

Ⅲ 教育 環境 の 整備	2. 組織としての協働体制 確立	<ul style="list-style-type: none"> 『専任教員が教育に専念できる環境づくり』を目標に R4 年度教務事務 1 名を採用。結果、教員は新たに確保できた時間を講義や演習準備・教員間情報交換に活用する等、一定の成果を確認した。しかし、更に移譲を希望する業務が多く、業務内容・量を整理した結果、R5 年度 2 名の教務事務体制を確保した。 その他、実習指導教員採用・学校事務の協力等による業務整理を継続した。人的確保による対策は一定の効果をみた。 R6 年度に組織体制変更があったことを含め、人的・物理的対策以外の観点から、引き続き教育に専念できる環境作り・協働体制に取り組み、最終は学生に還元していく。
	3. 安心・安全な環境を保証 するハラスメント対策	<ul style="list-style-type: none"> R4 年委員会を立ち上げ、現状の確認・課題・規約等作成を進めた。 R5 年ガイドライン、委員会規定を完成。 学生・教職員への周知（説明・研修会）実施。 R6 年度学生便覧への掲載や保護者への説明（保護者会）実施。 R5 年度ハラスメント委員会対応事例 0 件 R6 年度以降も啓発研修を継続していく。 また、合理的配慮への対策も進め、誰もが学べる安心・安全な環境作りを進める。

令和 6 年度 和歌山県立高等看護学院重点課題

令和 6 年 4 月 1 日

ビジョン	変化にしなやかに適応し、“看護が好き”と、生涯にわたり生き活きと実践し続ける質の高い看護職を輩出する学院
組織目標	<ul style="list-style-type: none"> I. 教育内容の充実：アップデートしながら最善を追求する教育 II. 教職員の人材育成：個の尊重と成長・組織としての成長を目指す人財育成 III. 教育環境の整備：いきいきと学ぶ・働く環境の保証 IV. 学生確保：学生・学院双方のニーズがマッチングする学生の確保
R6 年度 重点課題	<ul style="list-style-type: none"> I. 教育内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム 3 年目の実施・評価（R4 年度～継続） 2. 学生個々の強みに応じた学習支援（R4 年度～継続） III. 教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 1. DX 社会に適応できる ICT 教育環境の整備（R4 年度～継続） 2. 組織としての協働体制確立（R3～継続） 3. 安心・安全な教育環境を保証する合理的配慮指針の確立（R6 年度より）
その他	<ul style="list-style-type: none"> I. 生きる自己点検・自己評価システムの再構築 II. 専任教員ラダー実施・評価 III. 安全・安心な環境を保証するハラスメント対策 <p>以上 3 点については一定の目標に達したことから、定例業務において継続的に実施評価する。</p>